

# “絆”きずな

## 在宅リハビリテーションの今後

我が国では来たるべき少子・超高齢社会に向けて社会保障制度を大きく変えようとしています。団塊の世代がすべて75歳以上となる9年後、いわゆる2025年問題。その切り札として登場した地域包括ケアシステムですが、この本格実施に向けて、厚労省はその総力を傾注しています。地域包括ケアシステムが目論見通りの効果を発揮するためには、5つの要素すべてがうまくリンクすることが必要ですが、中でも在宅系サービスと生活支援・介護予防はその中核を担うとあって過言ではありません。そして間違いなく在宅リハビリテーションはこの3つを支える中心となります。私たちはその現場においてリハビリテーションマインドに基づいた在宅リハビリテーションを提供することは勿論、その活動を有効ならしめる制度作りについても努力しなければならないと思っています。

参議院議員 小川 克巳

公益社団法人日本理学療法士協会 副会長

## 南から始まる訪問リハビリテーションの魅力 in福岡県

病院勤務から訪問リハに携わるようになり12年目を迎えました。研修会や飲み会で、「訪問リハ面白いですか?」とよく聞かれます。そう聞いてくる人のほとんどが訪問リハを経験したことがない方です。必死にその魅力を語りますが、残念ながら私の思っていることの半分も伝わっていません。論理的に言葉で伝えることができないからです。なので、とても抽象的な表現になりますが、日々のリハビリを通じて、その方の人生の一部に関わりを持つこと。つまり、目標に向かって苦しみや喜びを共に感じあえることです。その中で心が震えるような感動を味わえる瞬間があります。その瞬間を感じる事が最大の魅力です。

福岡県訪問リハ・地域リーダー 竹下 真大

リハビリ訪問看護ステーションすばる 理学療法士

## 求む、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士!

本財団は、2011年3月11日の東日本大震災を受けて、日本理学療法士協会・日本作業療法士協会・日本言語聴覚士協会が共同出資し、被災者の支援を目的として創設したものです。その業務内容は被災した福島県・宮城県・岩手県の被災者および高齢者の支援として、専門的な在宅での理学療法や作業療法・言語聴覚療法を提供することです。

事業所創設以来、被災現場での医師やケアマネの支持を受けて、急激に対象者が増え、現在のスタッフでは十分なサービス量を確保することが困難な状況となりました。また、その内容も多彩となり、従来の在宅リハビリテーションから看取りまで行われるようになりました。一方、最近では市町村事業とのかわり方が急激に増えて、まさに地域包括ケアシステムの重要な起点になりつつあります。

このような状況下で、発災後頑張ってこられたスタッフの一部が離任すること等があり、今回のリハビリテーション専門職の急募となりました。新人の方々から、定年を迎えられた方々まで老若男女は一切問いません。志の高い方の応募を期待しております。

公益社団法人日本理学療法士協会 会長 半田 一登

一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 理事長

### 《お知らせ》

～第8回訪問リハビリテーション管理者養成研修会STEP3東京～ 2016年11月21日(月)より受付開始  
各協会員が訪問リハビリテーションを提供する事業所の管理者として必要な、地域に望まれる事業所の遂行能力と高いコンプライアンスの実践能力、また不測の事態にも的確に対応できるリスク管理能力、そしてより広角的視座に立った運営能力等を身につけることを目的として、「訪問リハビリテーション管理者養成研修会STEP 1～3」を開催しております。詳細は11月中旬以降に、一般財団法人訪問リハビリ振興財団ホームページに掲載します。